国　語

児童生徒がICTを活用することで，言葉による見方・考え方を働かせて，言語活動を通して，正確に理解したり適切に表現したりする授業

言葉を大切にする授業

子供の視点から

①記録・保存機能の活用

・「話すこと・聞くこと」の学習で，話したり聞いたりしている姿や話し合っている様子を録画し，観点を意識しながら客観的に分析する。

・「書くこと」の学習で，取材した情報や構成，記述の過程を保存し，よりよい文章にするために活用したり、学びを振り返ったりする。

②共有機能の活用

・「読むことの」学習で，考えたことや立場を共有し，目的をもって意見交流をする。

教材の視点から

各自の考えや，調べた資料，制作中のデータをクラウド上に置き共有することで，自分に必要な考えや情報を選択して使うことができるようにする。

例えば

・古典の学習で，時代背景がわかる資料を用いて文章の内容理解を図れるようにする。

・説明文を読む際に，関連する資料を探し，筆者の主張について自分の考えをまとめる。

・デジタル教科書に色の線を引いたり，書き込みをしたりして各自の考えを共有する。

問題解決の過程の視点から

言葉による見方・考え方を働かせながら，考えを伝え合うために，クラウドで同時共同編集などを行う。

例えば

・付箋機能を使った思考ツールを用いて，個人の考えを共有し，話し合ったり自分の考えに取り入れたりする学習にいかす。

・プレゼンテーションソフトを使って，考えたことや発表内容をまとめ，互いに比較検討する。

・オンライン会議機能を使い，遠隔地の方と交流し，情報収集を行う学習にいかす。

StuDX　Style（文部科学省より）

https://www.mext.go.jp/content/20210607-mxt_kyoiku01-000015429_js.pdf

実践報告　小学校６年生「表現の工夫に着目して読み，日本文化を紹介するパンフレットを書こう（『鳥獣戯画』を読もう）」

アップデートしよう

①表現の工夫に自然と目を向けられるようにするために、２つの文章を端末で確認し，比べる。

②自分の考えを広げるために、付箋ツールで全員の考えを参照する。

③本時の振り返りを蓄積し、自己評価へつなげるために、クラウドアンケートへ記入する。

使用したアプリ

・付箋ツール（共同編集・話し合い）

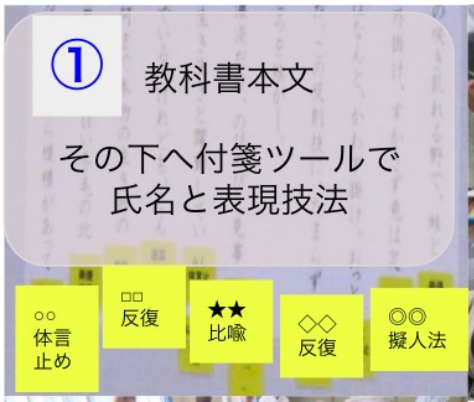
・クラウドアンケート（振り返りの記入）

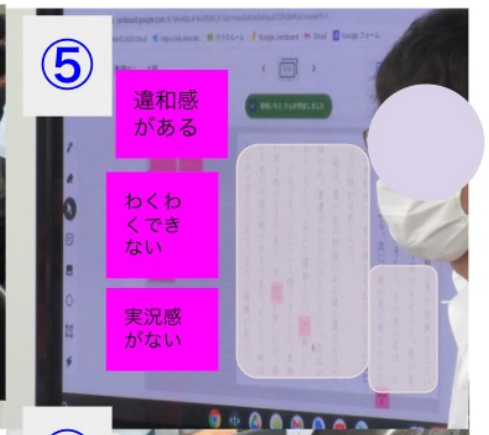
本時のねらい

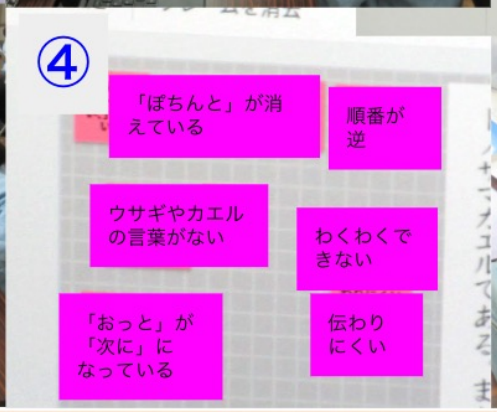
２つの文章を体言止めなどの表現技法に着目して比較することをとおして，筆者が用いた表現の工夫と効果について、自分の考えをもつことができる。

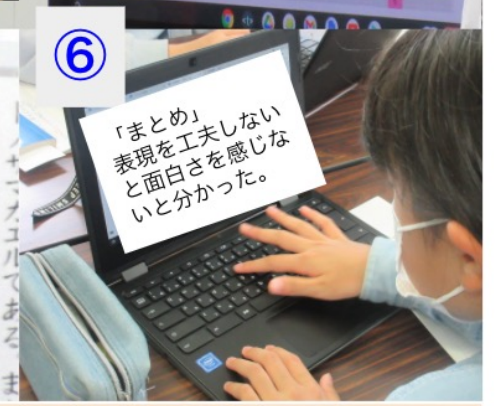
導入	課題確認	・付箋ツールの記録をもとに前時の学習を振り返るとともに，「表現の効果について考える」という本時の課題を確認する。写真①②	★付箋ツールで資料を配付し，各自が端末から読むことで，言葉とじっくり向き合えるようにしています。 ★付箋ツールを用いることでクラス全員の意見に触れることができます。より多様な考えを知ることで，自分の考えを広げられます。
展開	活動	・２つの文章を比較し，表現の工夫とその効果について友と考え，気付きを付箋ツールへ入力する。写真③④	
終末	振り返り	・表現の工夫とその効果について，他の班の考えを全体で聞いた後，一人一人，自分の考えをクラウドアンケートへ入力する。写真⑤⑥	

導入 >> 展開 >> 終末









児童生徒の姿から

・導入場面では，前時に発見した教科書本文中の表現の工夫（体言止めなどの表現技法）を，各自の端末画面で確認しました。その上で「工夫されていることは確認できたけれど，その効果についてはまだ考えていないね。」と前時を振り返った上で本時の学習問題を確認し，活動の見通しをもつことができました。写真①②

・展開場面では，付箋ツールで提示された文章（教科書本文から表現技法を除いた文）を教科書本文と何度も見比べました。そして，先に学習しノートにまとめた表現技法一覧に照らし，除かれた技法の種類を確認しました。次に，提示された文章の表現に感じる物足りなさなどを，付箋ツールへ入力しました。その際，隣同士で話し合ったり他グループの付箋を見たりと，友の考えも参考にしました。写真③④

・まとめの場面では，考えたことをクラウドアンケートへ入力しました。表現の工夫が読み手に与える印象を変えることを実感し，そのことを全体で確認した上で，言葉を選びながら自分なりの表現にまとめました。写真⑤⑥

授業者の先生から

・「自分の考えを伝えたい」「限られた時間でも，いろいろな意見に触れたい」という願いが，端末の活用により実現しやすくなりました。友の考えを参考にしたいと感じた時に他グループの付箋を見ることができるので，一人一人の学習のペースに合わせて表現の効果について考える姿につながりました。
・教師が用意した文章を教科書本文と比較し，また多様な考えにも触れ，言葉による見方・考え方を働かせながら，筆者の表現の工夫に気づきやすいようにしました。

この事例のポイント

・付箋ツールを用いて教師のモデル文を提示することで，一人一人が自分のペースで教科書本文と比較することができ，言葉による表現の工夫に気付くことができる。
・付箋ツールで多くの友の意見を参考にすることで，広い視点で言葉に着目できる。
・友と考えたり振り返ったりする際には端末を用いる一方で，学習で得た新たな知識はいつでも見られるようノートへ書き，目的に応じて使い分けている。